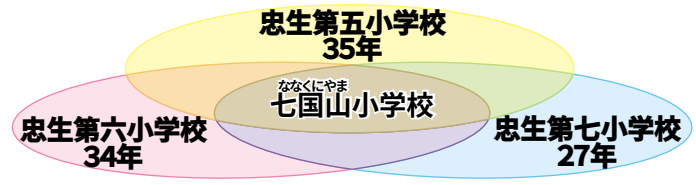
ありがとう　さようなら　閉校にあたって



教育委員会では、子どもたちのより良い教育環境の整備充実を図るため、「学校適正規模適正配置事業実施計画（1999年3月策定）」に基づき、小規模化が著しい市立小学校の統合を進めています。

2001年4月『木曽境川小学校』、2002年4月『本町田小学校』が、誕生しました。

更に本年4月には、忠生第五・忠生第六・忠生第七小学校3校が統合され、統合新設校『七国山小学校』が誕生します。

忠生第五小学校は2月7日、忠生第六小学校は1月24日、忠生第七小学校は1月31日に、それぞれ閉校式を行う予定です。本年3月31日をもって長い歴史に幕を閉じます。閉校にあたり、最後の学校長にこれまでの学校を振り返っていただきました。

いつまでも心に生き続ける　忠五小

忠生第五小学校

11代校長　川村康昭

本校は、昭和43年4月1日、忠生第三小学校より独立し、町田市18番目の小学校として誕生しました。今から35年前のことになります。この頃、市の人口は15万人に近づき、年間人口増加数もピークを迎えていました。開校時、児童数158名（7学級）、教職員12名で出発、6月3日には、本校玄関前の校庭において、開校式が挙行され、この日を開校記念日として制定しました。翌々日の5日には、桜・いちょう・ヒマラヤ杉が忠生第三小学校PTAより寄贈され、植樹を行いました。これらの樹木は、今立派に成長し、どっしりとした姿で学校を見守ってくれています。児童数はその後、どんどん増え続け、昭和51年には、1351人（34学級）となり、ピークを迎えました。今では想像も出来ないほどのマンモス校でした。しかし、この時期を境に、徐々に児童数は減り続け、開校して35年後の現在、201名という小規模校となりました。児童数の推移にも、35年間の時の流れを感じます。

校章・校旗は昭和44年、校歌は昭和48年に制定されました。校章のモデルになった三つ葉の三つの葉のそれぞれには、「思いやり」「規律」「自発性」の三つの精神が込められています。そして、その精神は、現在まで受け継がれてきています。本校の、特色ある活動の一つに、学校前の自然林の活用があります。学校や地域の方々が懸命になって、公団に働きかけ、昭和46年に借り受けることが出来た5000平方メートルに及ぶ自然林です。学校のすぐ近くにあるため、自然との触れ合いを深め、自然保護や環境保全への意識・関心を育てるといった教育活動に大いに生かされています。また、本校30周年を記念して郷土資料室も作られました。地域の方々から寄贈された様々な昔の生活用品が展示され、学習に役立っています。開放教室があることも本校の特色です。

◇

平成元年から、余裕教室を活用して、市民の文化・学習の場として、心に残る発表会でした。

◇

本校が、地域に根ざした教育を目指し、一歩ずつ歩んできた道は、歴代の校長先生をはじめ教職員の努力の道でもあり、誇りとするところです。閉校はさみしいですが、子供たちは、忠生第六小学校での思い出を宝物に、希望を抱いて新しい七国山小学校でがんばって欲しいと願っています。

最後になりましたが、本校の教育の発展にご支援、ご助言を賜りました保護者・地域の皆様そして教育委員会に心よりお礼申し上げます。

思い出は宝物　希望を抱いて

忠生第六小学校

11代校長　小山量子

忠生第六小学校は、あふれる光とひろい空の下、子供たちの声が響く学校です。丘陵地を切り開いてできた山崎団地の一角に昭和44年4月に開校しました。

開校当時の児童数は、10名でした。教職員は13名。大きな団地の小さな学校でした。プレハブ校舎でスタートし、新校舎の落成式は、11月に行われました。校庭は何もない赤土でした。初代校長井上先生や、保護者・地域の皆さんが、イチョウ・赤松・レンギョウ・孟宗竹などを次々に植えてくださいました。おかげで、現在、総合的な学習の時間等でとても役にたっています。イチョウは校章にも使われています。「忠六小」の文字を囲む三枚のイチョウの葉は、学校・保護者・地域を意味しています。その通り三者が協力して地域の中の学校として本校を創り上げてきました。プールのそばにある「わんぱくとりで」は、34年間子供たちの遊び相手となり、成長を見守ってくれています。

近くの農家に田んぼを借りて、田植えをしたり、遠足は、七国山に歩いて行ったり、周りの自然をおおいに活用して教育活動を展開してきました。

少しずつ児童数が増え、昭和50年には1271名、学級数35のマンモス校になりました。昭和51年には、忠生第七小学校ができ、先生や子供たちが移っていきました。

昭和60年ころから「風の子まつり」が始まりました。ゲームや手作り工作の店を出す等、今でも子供たちの楽しみな行事の一つです。運動会や学芸会・展覧会等の学校行事では、皆で協力して創りあげるすばらしさを学んできました。そして、PTAの皆さんは、いつでも惜しみない協力と、応援をしてくださいました。

平成11年度より町田市研究奨励校として、「総合的な学習の時間」の研究を推進してきました。ケアセンター・保育園や地域の皆さんとの交流を通して、たくさんの事を学び、体験することが出来ました。平成12年度と13年度は、2年連続で研究発表会を開催し、多くの皆さんに研究の成果をみていただきました。子供たちにとっても、心に残る発表会でした。

◇

本校が、地域に根ざした教育を目指し、一歩ずつ歩んできた道は、歴代の校長先生をはじめ教職員の努力の道でもあり、誇りとするところです。閉校はさみしいですが、子供たちは、忠生第六小学校での思い出を宝物に、希望を抱いて新しい七国山小学校でがんばって欲しいと願っています。

最後になりましたが、本校の教育の発展にご支援、ご助言を賜りました保護者・地域の皆様そして教育委員会に心よりお礼申し上げます。

(上)は、昭和44年開校時の校舎
忠生第六小学校全景(下)
校庭中央は、全児童参加の校章人文字

自然をいつくしみ　香り高い校風

忠生第七小学校

8代校長　久保田光則

本校の母体校忠生第六小学校が、開校7年目で児童数1200名を超え新設校が求められました。この結果、1976年（昭和51年）4月に町田市31番目の小学校として、忠生第七小学校が開校しました。当時、両校は道路を挟んで向かい合った小学校として新聞などを賑わしたそうです。

創立以来、27年間、良き伝統や香り高い校風の確立をめざして地域・保護者の方々の温かいご支援を受け教育活動を推進してまいりました。

開校当時は、児童数491名、学級数14学級という規模でスタートしました。そして、同年6月に開校式典を行い、6月1日を開校記念日としました。開校4年後の1981年（昭和55年）になると児童数が本校の歴史で最高の805人、20学級となりました。しかし、その年をピークに児童数は、町田の子どもたちにとって多摩丘陵の自然は大きな財産です。本校のまわりにも七国山をはじめダリア園、リス園、新東京百景の一つ薬師池公園などがあり、自然環境に恵まれています。また、校内にも約200㎡の畑と約300㎡の自然観察園があります。

「環境が人をつくる」といわれるとおり人間形成とは、人間が自然とのかかわりの中で自分自身を主体的にかたち作っていく過程であると理解しています。本校では、この自然環境を生かし、生活科、社会科、総合的学習、遠足などの行事、野外観察や体験学習を通して自然をいつくしむ心を養ってきました。自然をいつくしむ心は、とりも直さず、人間を愛する心であり人間尊重の精神でもあります。それは、本校の教育目標「思いやりのある子」の具現化であり、また、福祉の町、町田市のめざす方向性につながるものと考えます。

◇

主体的な学習態度や旺盛な学習意欲を育成することを最大の役割として担っています。すなわち、子どもにとっては学校は勉強の場です。

この勉強の場を勉強の場たらしめるには、学校全体に向学の気風がただよっていなければなりません。本校は、27年間、この向学の気風、いわゆる、校風の確立にも力をそそいでまいりました。

最後になりましたが、本校の教育の発展にご尽力賜りました保護者、地域の皆様、そして、教育委員会に衷心よりお礼申し上げます。

忠生第七小学校の全景(上)
校舎は、2003年度中に全面改修され、3校の統合新設校『七国山小学校』の本校舎として、2004年4月に、新しく生まれ変わる(下)は、児童数が最盛期の頃の賑やかな運動会の風景